

## <多様性>を切り拓く：根源的課題を問いつける

岩淵功一

(シドニー工科大学・ヴェネチア大学)

### 1 多様性の奨励と封じ込め ～ 何を促し、何に蓋をするか

#### \*多様性の奨励がもたらす有用性の前景化＝差異の新たな包摂と排除？

- ◎ “わたしたちを豊かにする”～ 調和的な文化の彩り&経済的有益性
- ◎ 他者＝多様性を選別し寛容する<中心>
- ◎ 新自由主義的な組織経営の枠組み～ 個人化された”役に立つ“多様性の奨励

#### \*肯定的なコミットメント＝構造化された差別を直視して解消する取り組みが後景化？

- ◎ 実質的変革を伴わないスローガン・トークニズム
- ◎ 差別・不平等の解消に取って代わる「ハッピートーク」

### 2 日本の状況と根本的課題：日常的な差別の認識の低さと国レベルの政策・法制度の不備

#### \*透明化された人々の存在と経験に目を向ける

- ◎ 3人に1人の在日コリアンが差別を経験。5人に1人が日本での生活に不安や恐怖を感じる(2021)
- ◎ 日常的差別が人間の尊厳を損なう深刻な問題だという認識が社会で共有されているか？

#### \*国レベルの共生に向けた政策・法制度の不備：多文化主義なき多文化共生

- ◎ 国レベルの移民受け入れ・統合政策の欠如～地方自治体、NGO/NPO、市民団体が実践主体
- ◎ 包括的差別禁止法・差別撤廃法制定の必要
- ◎ 国民の理解・配慮の強調 = 構造・制度を変えずに<心>の問題として解決？

### 3 <多様性>を切り拓く ～ 前提/問いを捉え返す

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 多様性の奨励・実現？     | すでにある差異をめぐる差別の現実を直視して解消する  |
| 多様性の活用・生かす・輝く？ | 実利的な有用性・活躍に還元されない公正な社会の豊かさ |
| 多様性の尊重・受け入れ？   | 自らも布置されている不均衡な関係性に相互に向き合う  |

### 4 歴史的に構造化されている差別を自分ごととする

#### \*共感から共闘へ

- ◎ 誰もが関わっている・巻き込まれている
- ◎ ゼロサムゲームではなく誰もをより生きやすくする
- ◎ さまざまな差別・生きづらさはどこかでつながっている

#### \*包括的な<多様性>がもたらす協繋

- ◎ ある差異に軸足を置きつつ多様な差異をめぐる差別のあり方に目を向ける
- ◎ インターセクショナルリティ：カテゴリーを超えて差異が交差し、同時に作用して影響し合う
- ◎ 多様な差異を持つ人々の「同じではない」経験を横断するしなやかな協繋へ

### 5 大学に求められることは～社会変革の実現に向けたロールモデル・リーダーシップ

- ◎ 実質的な人材多様化・構造変革～パフォーマンス・価値創造を超えて
- ◎ 差別の歴史・現状の検証&改変(制度、組織風土、カリキュラム等)
- ◎ 幅広い市民を巻き込む学びひらき・対話・協繋の実践